建築・都市整備・道路委員会資料
平成３１年２月１３日
都市整備局

「まちを楽しむ多彩な交通」の取組状況について（報告）

１　趣　旨

都心臨海部において、移動自体が楽しく感じられるような多彩な交通サービスの導入に向け、平成 29 年度に公募を実施した「まちを楽しむ多彩な交通」について、提案ごとに実現の可能性を見極めながら公民連携による検討を進めており、検討が進んだ取組については、順次公表等を行いながら実施してきました。昨年 12 月には、本常任委員会において、取組状況をご報告しました。

このたび、桜木町駅前と新港ふ頭を結ぶ「ロープウェイ」について、検討が具体化してきましたので、ご報告します。

２　事業概要

事業者	泉陽興業株式会社
事業内容	桜木町駅前広場と運河パーク（新港ふ頭）を結ぶ延長約 630mのロープウェイの整備・運営
施設名称	**YOKOHAMA AIR CABIN**（仮称）
施設内容	停 留 所　：桜木町駅前（鉄骨造２階建（ピロティ形式）） 運河パーク（鉄骨造２階建） 支　　柱　：地上２基（高さ約 10m） 海上３基（高さ約 30～40m） ゴンドラ　：乗車定員８名、36 基（全基車いす対応）

図１　位置図

３　事業コンセプト

１「新たな交通ネットワークの形成」
- ◆新しい交通による利便性の向上
- ◆新港ふ頭方面のアクセス機能の強化
- ◆客船受入れ機能との連携

街を楽しみながら移動できる交通サービス

２「まちを楽しむ新たな体験」
- ◆港や街並みを見渡す新たな眺望の創出
- ◆移動自体が楽しめる新しい交通の実現
- ◆特別な時間と空間を感じられる場の演出

３「新たな景観と賑わいづくり」
- ◆ダイナミックな都市景観の創出
- ◆横浜の魅力を世界に発信
- ◆周辺施設と連携した賑わい形成

図２　コンセプト概念図

図３　エリア図

４　景観形成・デザインの考え方

今回整備を計画しているみなとみらい２１中央地区及び新港地区は、地元まちづくり組織等と連携を図りながら、様々な魅力づくり、まちづくりに取り組んできた地区であり、本市を代表するエリアとして、質の高い魅力的な都市景観を形成しています。

本計画においても、今まで形作られてきた景観に調和し、融合することを基本としつつ、新たな交通として先進的なイメージが感じられ、景観の魅力が更に高まるようなデザインとなるように検討を進めています。

具体化に当たっては、みなとみらい２１中央地区及び新港地区をはじめ、隣接する北仲通北地区の景観ガイドラインに配慮するとともに、都市美対策審議会景観審査部会にも諮りながら、更なる検討を進めます。

（１）デザインの基本コンセプト

◆調和

都心臨海部でこれまで形成されてきた景観・デザインと調和し融合を図ります。

◆統一感

駅舎やゴンドラなど施設を構成する各要素を統一したデザインコンセプトで展開します。

◆先進性

日本で最初の常設都市型ロープウェイとしてシンプルかつスマートなデザインとします。

◆ダイナミック

横浜を象徴するエリアに新たに動きのある景観要素を加え躍動感を創出します。

◆３次元

立体的な角度から港や街並みを見渡すことができる新たな眺望を創出します。

（２）デザインパース

５　今後の進め方

現在関係機関と事前調整を実施しており、事業の実施に必要な各種法令等の手続きや、実施設計、施工計画等の検討を進めるとともに、今年度中に提案者と事業実施に関する協定を締結し、来年度に事業着手する予定です。

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」までの営業開始を目標に、引き続き検討を進めます。

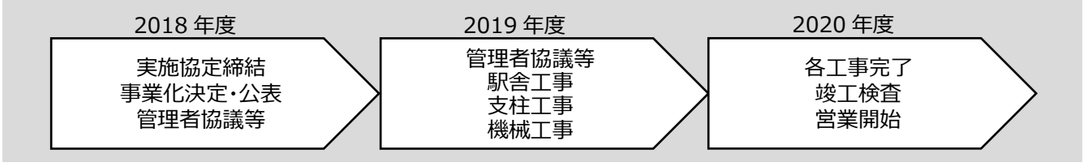

図4　想定スケジュール